



鳥取市の公用車に中古EV納車

自動車リースの住友三井オートサービスは5日、中古の電気自動車(EV)1台を鳥取市に公用車として納車した。写真。同社と同市、同社の



販売代理店である智頭石油(鳥取県智頭町)の3者で6月結んだ中古EV市場の可能性を調べる事業協定の一環。

市の中山間地域で国の「脱炭素先行地域」に選ばれている佐治地区の佐治町総合支所に日産自動車の「リーフ」をリース

した。新車から6年弱経過し、走行距離は2万7000キロ。新車時のバッテリー容量は40キロで、現在のバッテリー消費率は89%。

3者は坂道が多く冬は積雪の多い佐治で、中古EVのバッテリー残量や走行データを集め中古EVの実用可能性を考察したり、「ゼロカーボンシティ」を発信したりする。

三井住友オートは全国の自治体と同様の事業を行っている。中国地方では島根県奥出雲町に続いて2例目となる。